

# 携帯電話の基地局整備の在り方に係る論点(これまでの主な意見)①

## 【現状】

### 携帯電話、基地局整備の必要性

- ✓ 不感地域の解消は、安心・安全の確保(安否確認)の有効な手段である。
- ✓ 携帯電話は、「あると便利」から「不可欠」になってきている。
- ✓ 携帯電話は常に携帯するものなので、不感地域の解消は住んでいる人だけのためではない。

### 不感地域の状況

- ✓ 不採算地域の中でも本当に不採算が大きいところが残っている。
- ✓ (福島県調べによる)エリア化要望なしの地区は、10世帯未満が多く、独居老人が多いため、携帯電話を利用しない世帯ばかりの地区と考えるが、安否確認に活用する等に踏み出せば、要望の有無も変わるだろう。

## 【課題】

### 補助事業

- ✓ 住民からの要望はあるが、事業者の参画が得られず、なかなか補助事業の実施に至らない。
- ✓ 補助事業終了後のエリアの維持についても検討する必要がある。

### 整備コスト

- ✓ 不採算の意味合いや維持管理、費用負担などを明確にした上で、検討していくべき。

# 携帯電話の基地局整備の在り方に係る論点(これまでの主な意見)②

## 【今後について】

### 出された要望

- ✓ 補助スキームの拡充(補助率のかさ上げ、補助金下限の撤廃、事業主体の変更等)
- ✓ 上越新幹線のトンネル、スノーシェッド、放射能除染作業の拠点等の不感対策

### 不感地域解消のための視点

- ✓ 官民連携(自治体と事業者の発想の統合等)
- ✓ 防災・医療などの分野におけるアプリケーションによる採算性確保
- ✓ 民業活力を最大限活用
- ✓ 携帯電話を使ったサービス(数値化した指標があると良い。携帯電話で何を提供するのか。)

### 方向性

- ✓ 不感地域の解消は高速化の要望に優先するが、高速通信でタブレット端末やスマホが使えることも重要である。
- ✓ ネットワーク外部性(加入者数が増えれば増えるほど、1利用者の便益が増加するという現象)等を考慮すると、特に居住地域における不感地域は解消できればと思う。
- ✓ 不感地域の解消とまちづくりの政策の連携が必要である。
- ✓ 限界集落のような場所で基地局を整備しようとする場合、その必要性を精査すべきである。

### 具体策

- ✓ 衛星回線を使用した基地局は、通常の基地局と比較すると劣る部分はあるが、同時に使用する人が少ない地域では十分なパフォーマンスが期待できる。
- ✓ 設置が簡易(伝送路がADSLで良い等)かつ経済的な小型基地局の活用は解決策の1つである。
- ✓ 各戸に光ファイバ等が引かれている場合、フェムトセルの積極的な活用も考えられる。
- ✓ 国内ローミングの活用可能性を考えてもよいのではないか。